

## 電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	Academic Written English II		
英文授業科目名	Academic Written English II		
開講年度	2008年度	開講年次	1年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	演習	単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化基礎科目 I		
開講学科・専攻	電子工学科 システム工学科		
担当教官名	酒井 邦秀		
居室	東1-716		

公開E-Mail	授業関連Webページ
sakaikunihide@bunka.uec.ac.jp	

<b>【主題および達成目標】</b>
<p>目と耳から大量の英語を吸収（多読・多聴）し、それを話す、書く、特に書くに利用できることをめざします。</p> <p>Academic Written English Iで吸収した英語を土台に、さらに高度な本や音声素材が自分に合っているかどうか及び内容について批判的に評価し、自立して本や音声素材を選び、それについて自分の意見を述べ、そこから発展した話題についても意見を述べられることをめざします。</p>

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
Academic Written English I

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
なし

<b>【教科書等】</b>
<p>全員が一斉に読む「教科書等」はありません。5千冊を越える多読用図書、200種類を越えるCD、100種類を越えるDVDを利用し、一人一人が違う道をたどって英語を使えるようになることをめざします。そのため毎年相当数の多読用図書が本棚に戻ってきません。それらの紛失を補充し、新たな素材を共同購入するために半期につき一人あたり、2000円を集めます。</p> <p>なお、この授業の参考書としては  「どうして英語が使えない？ 学校英語につける薬」酒井邦秀、ちくま学芸文庫  「快読100万語！ ペーパーバックへの道」 酒井邦秀、ちくま学芸文庫</p>

## 電気通信大学 平成20年度シラバス

「教室で読む英語100万語」  
があります。

酒井邦秀、神田みなみ、大修館書店

### 【授業内容とその進め方】

前期にAcademic Spoken English Iを履修したことを前提に：

#### \* 読む・聞く

個別指導により、多読・多聴三原則の徹底を図り、吸収量をさらに増やします。

前期同様、個別指導のもと、文字の多い絵本や挿絵入り本、家庭向け映画などのDVDなどを使い、やさしい英語を大量に吸収してもらいます。前期で以上の段階に達している人にはさらに高度な多読・多聴素材を使い、大量に吸収してもらいます。

#### \* 話す・書く

その上で、吸収量の多い人から英語で個別指導をします。返答は英語でも日本語でもどちらでもよいでしょう。徐々に英語にしていってください。1年間の終わりに全員が英語で受け答えできるようになればよいとします。なお、英語で答えるようになった人から順に、授業の最後10分ほどで読んだ本の感想を書いて提出してもらいます。たくさん書いた人から徐々に学術的な内容で英語の文章をまとめられることをめざします。

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

出席と試験で成績を出します。

出席は3分の2以上。試験は数百語程度の英文を書いてもらい、moderate writerすなわち全体にある程度の流れがあり、導入と本体と結論が明確であることが必要です。

### 【オフィスアワー：授業相談】

課題の本やCDが終わったら研究室前の本棚に本を取り替えに来てください。  
その際に研究室の戸を叩いて、様子を聞かせてください。

水曜日の午後から6限の終わりまでがいちばんつかまりやすいはずですが、  
そのほかの時間は会議、授業の準備などで研究室にいないことがあります。  
事前に連絡をください。

### 【学生へのメッセージ】

楽しむこと！ そして2年の終わりには将来の夢を実現するためにどういう英語を身につけるか、そのためには今何をするかを考えはじめてください。

【その他】

前期同様、授業以外に家で読み、聞くことを奨励します。授業時間だけの英文の吸収ではほとんど意味をなしません。はじめはわたしが助言しながら家で読む本、聞く素材を選びますが、多聴多読三原則により、次第に自分一人で選べるようになってください。